

- 県) ……………10名加算分 5名  
 関西地区(大阪府, 京都府, 滋賀県, 和歌山県,  
 奈良県, 兵庫県, 鳥取県, 島根県, 岡  
 山県, 広島県, 香川県, 愛媛県, 徳島  
 県, 高知県) …………… 4名  
 九州地区(山口県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県,  
 大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県)  
 …………… 3名  
 沖縄地区(沖縄県) …………… 1名
2. 監事は通常会員の中から2名互選される。

3. 通常会員は, 理事および監事に立候補することができる。
4. 他の通常会員によって書面により理事および監事に推薦され, かつそれを承認した通常会員は推薦候補となることができる。
5. 理事および監事は, 立候補者および推薦者以外の通常会員からも選挙される。
6. 理事および監事の選挙は, それぞれ種類別に連記する無記名文書投票とする。

### ==== 関西支部だより ====

#### ——中国地区講演会集中豪雨について——

広島地方気象台では昭和50年10月28日9時30分から12時まで気象研究所の二宮洗三氏を迎えて表題の講演会を開催した。関係者約50人が聴講して盛会であった。主として梅雨前線帯の豪雨について話されたが, 紙面の都合で, 興味ある事項だけを取り上げて列記する。

1. 梅雨前線を維持している水蒸気は, その水蒸気流束の東西成分は発散となっており, この発散を補う以上の水蒸気輸送による南北方向の収束によって, 特に南からの強い流入によって維持されており, 水蒸気の流れは中国大陸などからでなく, 小笠原高気圧の縁を回る下層の南西風によって形成されている。

2. 900~600mb に現われる下層ジェットのやや北側に集中した擾乱のエネルギーがあって, ジェット軸の北側200km の巾のなかで豪雨が多発している。つまり, 大まかに言えば, 下層ジェットの北側で上層ジェットの南側の域内で大雨が発生することが多い。しかし, 擾乱系の南側で下層ジェットを見つけた場合, それが前線帯の一般的な性質を表わしている下層ジェットであるのか, 前線帯と重なっている擾乱に伴う局所的な下層ジェットであるのか識別する必要がある。

3. 下層ジェットを中心とした循環場は, 下層ジェットの軸に直角な垂直断面を考えた場合, 下層ジェットを境にして, 下層では北側で上昇流(湿潤), 南側で下降流(乾燥)となっており, 上層ではこの逆の循環が認め

られる。

4. 中間規模擾乱においては, 湿潤域の上層300~500mb に温暖域が形成される。このことは, 下層の収束によって積雲対流が盛になり, このため上層では対流昇温によって温暖化されるためである。また, この脊の高い積雲対流が現われる場合は, 上層の温度場に伴う風のシャー, 特に200~400mb の風のシャーに注目することは降水現象に対応した現象として大切である。

なお, 擾乱が通過した直後に, 下層では昇温が見られるが, これは後面の乾燥域における断熱下降流による昇温であって, それが終ってから本来の寒気による温度下降がみられる。

5. 総観規模の低気圧に伴う収束域におけるエコー分布は, メソスケールの集中を示しており, 何本かのエコーバンドが前線を形成しているとみるべきであって, 特定のエコーバンドを前線と考えるような, 総観解析における前線の概念をメソスケール天気図(例えばレーダーエコー図)に持ちこんではいけない。

6. 中間規模あるいは中規模擾乱におけるエコークラスターから対象とする現象を抽出するには, その現象の性格と観測網の密度, 測器の精度や分解能を考慮して, 適当なフィルターをかけて大きな擾乱を除けば, 総観場では見えなかった擾乱が解析出来る。